

### 3-（4） ハタハタ資源調査

藤原 大吾

#### 目的

本県の主幹漁業である沖合底びき網漁業の重要魚種の一つとなっているハタハタの資源生態調査を行うことにより、資源の持続的利用と漁業経営の安定を図る。

#### 方法

①本種の漁獲動向および雌雄別体長別漁獲尾数を把握するため、主要水揚げ港である賀露、網代、境港（田後漁業協同組合所属、鳥取県漁業協同組合境港支所の全船及び鳥取県漁業協同組合網代港支所所属の一部漁船が水揚げ）において、市場測定、生物調査及び漁獲統計調査を行った。

②試験船により、青谷沖から日御碕沖において、各地点30分ずつ着底トロール網（目合4cm）を曳網し、漁期直前の8月（秋季調査）のハタハタの分布状況を把握した。

③また、鳥取沖の4地点において、ハタハタ春漁直前の2月（春季調査）に各地点30分ずつ着底トロール網（目合4cm）を曳網し、ハタハタの分布状況を把握した。

#### 結果

##### ① 漁獲動向

###### 【漁獲量】

ハタハタの年間漁獲量は大きく変動しながら推移しており、2024年は前年から503トン増加し、607トンで極端な不漁となった2023年から大きく回復したものの平年比（2019-2023年平均）では56%と低調な漁獲状況が継続した（図1）。

月別の漁獲量を見ると例年、盛漁期となる3～5月に低調な漁獲となり、9月は平年並みの漁獲となった（図2）。

###### 【体長組成】

市場調査、生物調査結果および統計調査から月別雌雄別体長別漁獲尾数を求め、図3、4及び表1に示した。

2024年の鳥取県のハタハタの漁獲尾数は1,315万尾で2歳魚（雌：体長16cm前後、雄：体長14cm前後）を主体とした漁獲となった。

前年の不漁は2021年級（2023年の2歳魚）の来遊がほとんどなかったことが要因として考えられる。一方で、2024年は前年にわずかながら漁獲が見られた2022年級（2023年の1歳魚）が成長し、2024年の漁獲の主体になったと考えられる。

##### ② 漁期前試験操業（秋季調査）

###### 【ハタハタ分布状況】

8月5～7日、19～21日に、青谷沖から日御碕沖の水深184～246mの14地点において（図5）、第一鳥取丸により、着底トロール網を用いて底魚類の分布調査を行った。

例年は2,3地点で100kgを超えるまとまった入網があるが、2024年はそのような多獲地点はなく、最も多い地点でも青谷沖水深207mで69.8kgの入網があったのみで全体的に入網量は例年と比較して少ない結果となった（図6）。

漁獲物は中～大銘柄（銘柄3～4番、体長15～18cm、2歳）主体に採集された（図7）。

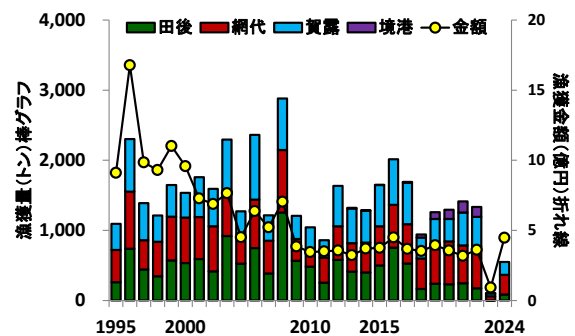


図1 鳥取県の沖合底びき網における地区別ハタハタ漁獲量・金額の推移（1995-2024年）

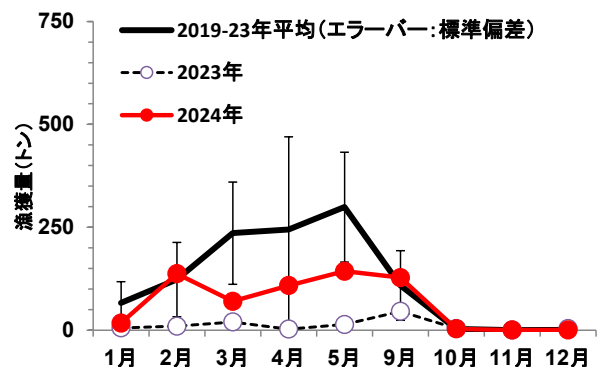


図2 鳥取県のハタハタの月別年別漁獲量

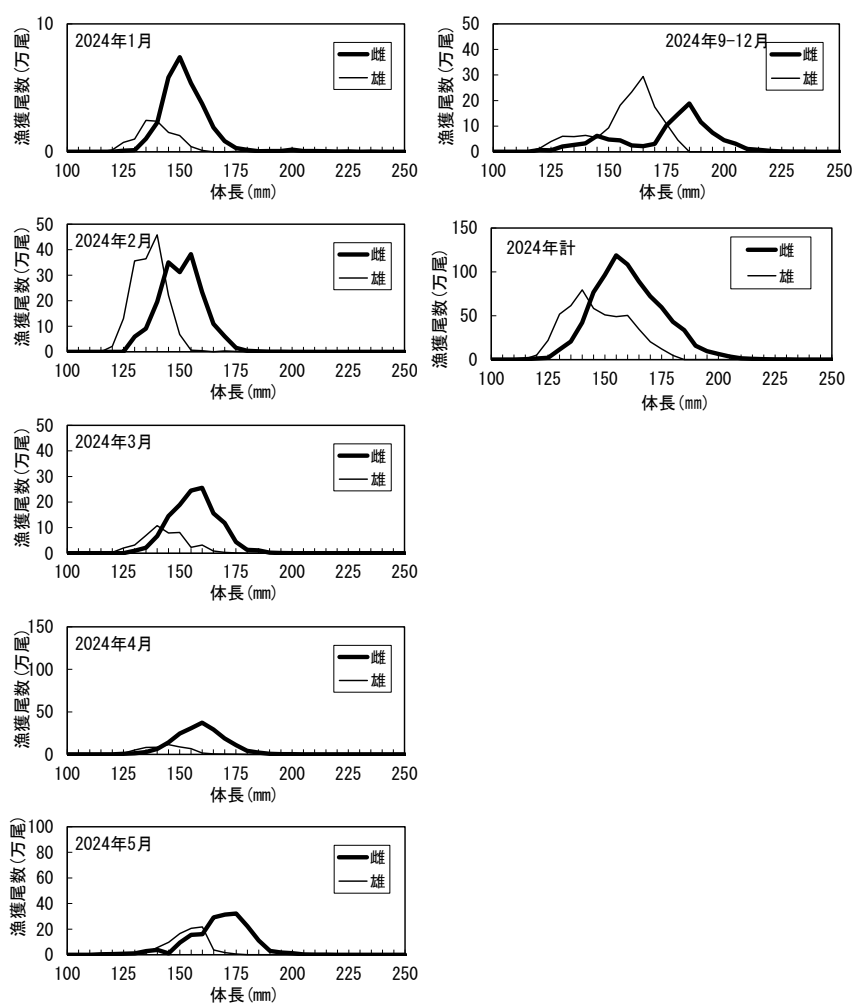


図3 鳥取県のハタハタの月別雌雄別体長別漁獲尾数

表1 鳥取県におけるハタハタの月別雌雄別体長別漁獲尾数(2024年)

体長 (mm)	1月		2月		3月		4月		5月		9-12月		(単位:万尾)	
	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄
95 - 100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
100 - 105	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
105 - 110	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5
110 - 115	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.7	0.0	0.0	0.4	0.7
115 - 120	0.0	0.2	0.0	2.1	0.0	0.3	0.0	0.6	0.6	0.5	0.7	1.3	1.3	5.0
120 - 125	0.1	0.7	0.0	13.0	0.0	2.0	0.7	1.5	0.7	0.5	0.6	4.0	2.1	21.8
125 - 130	0.1	1.0	5.9	35.6	1.0	3.2	1.3	5.1	1.1	0.7	2.1	6.1	11.5	51.7
130 - 135	1.0	2.5	9.1	36.5	2.1	7.0	2.8	8.2	2.8	1.3	2.7	5.9	20.6	61.4
135 - 140	2.3	2.4	19.7	45.9	6.7	10.8	6.4	8.4	3.8	5.6	3.3	6.4	42.1	79.5
140 - 145	5.8	1.5	35.1	22.1	14.5	7.9	14.1	11.6	1.1	9.7	6.2	5.5	76.8	58.3
145 - 150	7.4	1.3	31.2	6.8	18.9	8.1	24.6	8.7	9.6	16.6	4.8	9.4	96.6	50.9
150 - 155	5.4	0.4	38.3	0.6	24.5	2.3	30.8	6.7	15.5	20.7	4.5	18.1	118.8	48.9
155 - 160	3.8	0.1	23.4	0.4	25.6	3.2	37.2	1.6	16.0	21.8	2.5	23.4	108.5	50.4
160 - 165	1.9	0.0	10.9	0.0	15.6	0.9	29.3	0.6	29.2	3.7	2.2	29.4	89.1	34.6
165 - 170	0.8	0.0	6.1	0.4	11.8	0.4	18.9	0.3	31.4	1.7	3.1	17.5	72.1	20.2
170 - 175	0.3	0.0	1.6	0.1	4.4	0.1	11.0	0.2	32.1	0.6	10.2	11.0	59.6	12.1
175 - 180	0.1	0.0	0.4	0.0	1.4	0.0	4.3	0.0	22.2	0.0	14.6	4.6	43.0	4.6
180 - 185	0.0	0.0	0.2	0.0	1.1	0.0	2.1	0.0	11.2	0.0	18.9	0.0	33.5	0.0
185 - 190	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.8	0.0	3.0	0.0	11.6	0.0	15.8	0.0
190 - 195	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	1.8	0.0	7.5	0.0	9.6	0.0
195 - 200	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	1.2	0.0	4.6	0.0	6.4	0.0
200 - 205	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	3.2	0.0	3.5	0.0
205 - 210	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	1.3	0.0
210 - 215	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.9	0.0
215 - 220	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.4	0.0
220 - 225	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0
225 - 230	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
230 - 235	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
235 - 240	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
240 - 245	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
245 - 250	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	29.6	10.0	182.2	163.7	128.1	46.3	184.9	53.6	183.7	84.8	105.7	142.5	814.2	501.0

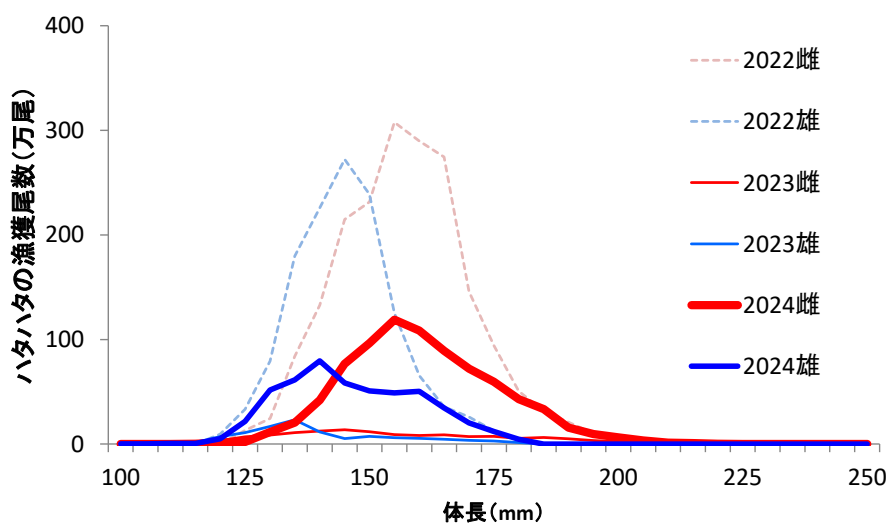


図4 鳥取県で漁獲されたハタハタの雌雄の体長別漁獲尾数

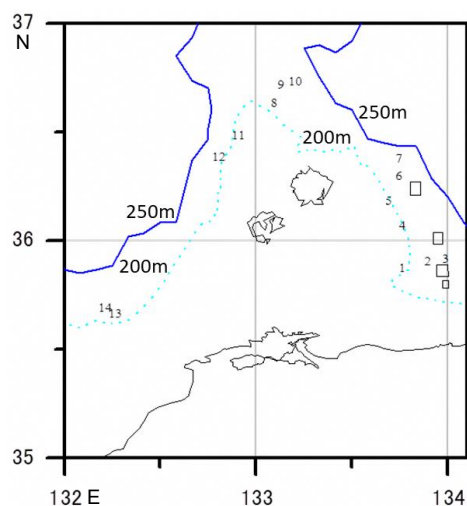


図5 2024年漁期前トロール調査定点

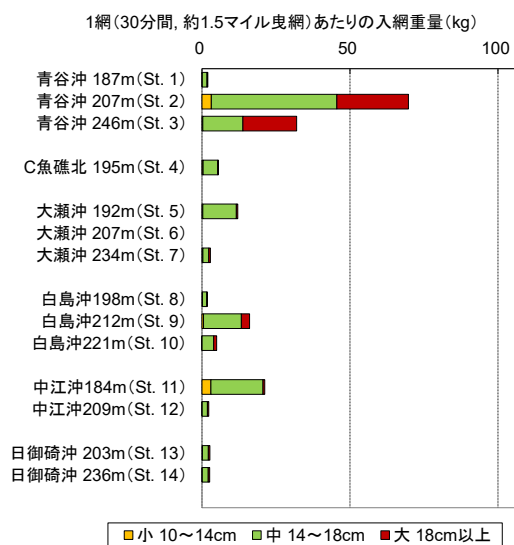


図6 2024年漁期前トロール調査によって漁獲されたハタハタの地点別漁獲量

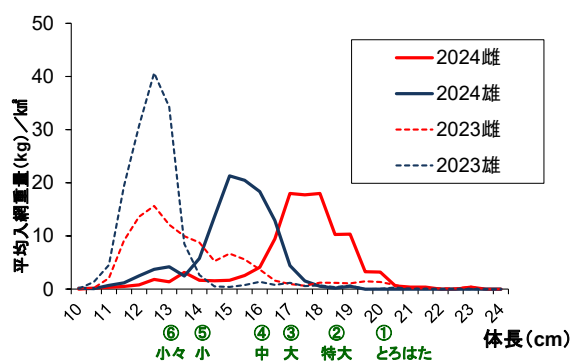


図7 漁期前試験操業で漁獲されたハタハタ雌雄の体長組成

### ③春季調査

#### 【ハタハタ分布状況】

例年，春季の主漁場となる鳥取沖の4点（図8）において，第一鳥取丸により，着底トロール網を用いてハタハタの分布調査を行った．（St.4は例年と異なる地点で新たに導入予定のトロール網を用いた曳網比較試験を実施）

2024年は近年の盛漁期のハタハタの主な漁獲水深となるSt.1（水深190m台），St.2（210m台）で前年を下回る低密度となった．また，2019-2021年の春漁が好漁となった時の分布密度と比較しても2025年の分布密度は低く（図9），サイズは体長12.5～17.5cm（2023年級の2歳魚）主体に採集された．

また来漁期の漁獲対象となる当歳魚の分布密度も低い状況が2022年以降から継続しており，ハタハタの当歳魚の発生が不調となっていることや，ハタハタの来遊時期が遅れていることが懸念された．

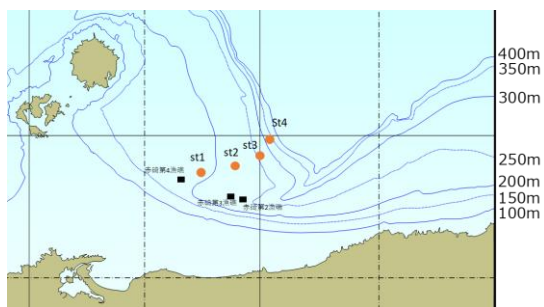


図8 春季ハタハタ漁期前調査定点

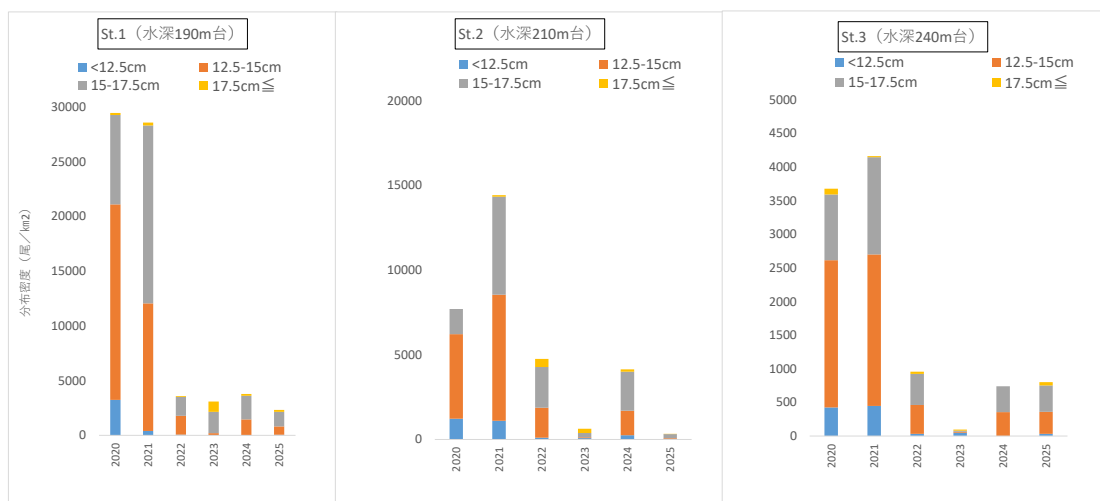


図9 春季ハタハタ漁期前調査でのハタハタのサイズ別の分布密度  
(2020—2025)